

■岸田劉生《路傍初夏》貸し出しプログラム（小学校）

| | |
|-------------|---|
| 美術館活用種別 | 複製画貸し出し |
| 対象 | 小学校高学年 1学級 40名程度 |
| ねらい | 作品と作者について触れ、主体的に鑑賞を楽しむ力を育む。 |
| 授業実践例 | 戸田市立戸田南小学校 第6学年 指導者：瀧本 麻子教諭 |
| 美術館との手続きの仕方 | 事前に教育広報担当に連絡を取り、使用日時と貸出期間、受け取りと返却の日時を決定する。 |
| 貸出キット内容 | ①複製画1枚 小型複製画9枚 ②指導案例 ③板書資料、参考資料（岸田劉生の他の作品等） |
| その他必要なもの | ①イーゼル（近代美術館でも貸し出します） ②ワークシートをクラス児童数分印刷 |

1 題材名 じっと見つめて考えよう ～道から始まるストーリー

2 題材について

本題材は、岸田劉生「路傍初夏」と出会い、そこに描かれている1本の道から想像を広げる過程を楽しむ活動である。

多くの児童が、友達の作品を見ることは日常的であっても、その他の作品に触れることは少なく、作品に注目して考えたり、その背景について考えたりすることも少ないと考えられる。また、この作品は人物や建物がなく、一見親しみにくい感じを受ける。

そこで、1本の道から自分なりに想像を広げたストーリーを作っていくことを目標に、順を追ってワークシートに記入することで間接的に対話しながら鑑賞活動を進めていく。

3 学習指導要領上の位置付け

この内容は、第5学年および第6学年の目標（3）「親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にしようとする。」を受けた内容のB鑑賞（1）のA「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを感じ取ること。」に対応している。

4 目標及び評価規準

○作品に関心を持ち、作品のよさや特徴を味わおうとしている。（造形への関心・意欲・態度）

○作品の良さに気づき、感じたことを自分なりの言葉で表現している。（鑑賞の能力）

5 指導計画 1時間扱い

6 本時の学習

（1）目標

○作品に関心を持ち、作品のよさや特徴を味わおうとしている。（美術への関心・意欲・態度）

○作品の良さに気づき、感じたことを自分なりの言葉で表現している。（鑑賞の能力）

（2）準備

教師：「路傍初夏」複製画セット（原寸大・額装1枚、A3パネル9枚）、ワークシート

児童：筆記用具、4～5人のグループに分かれておく。

（3）展開

| | | | |
|--|--|--|---|
| | <p>あう。</p>  | <p>自分なりのお話を考えられるようにする。(ワークシート★2) ○班で全員が発表し、その中で1番印象に残った話を全体で発表させる。</p> | <p>付き、感じたことを自分なりの言葉で表現している。 【ワークシート記述・発言】</p> |
| <p>◎今日、迷子になりました。知らない道を歩いて、ずっと泣いていました。ふと、右の方から声がしたので、木が生えているへいに登ってそこから景色を見てみました。すると、あまりにきれいだったので、涙が止まりました。向こうからお母さんが走ってきます。さっきの声はだれだったのでしょうか。</p> <p>◎何十年もかけて、世界中を旅してきました。そしたらこんな所へたどり着いてしまいました。木々や自然のいっぱいあるところで座ると気持ち良かったです。その後は宇宙の旅をして、いろいろな星などをめぐってきました。</p> | | | |
| <p>整理 5分</p> | <p>5 作者や本時の学習をふりかえり、わかったことや感想を記入する。</p> | <p>○感想を記入し、学習を振り返ることができるようにする。 ○作者や作者の他の作品については、最後に軽く触れる程度にする。</p> | |

7 資料

(1) 岸田劉生「路傍初夏」について

岸田劉生は、1917年病氣療養のため藤沢市鵠沼に転居した。この鵠沼時代には、「麗子像」などの人物のほか風景、静物に数々の傑作が生まれ彼の最も充実した時代であった。「路傍初夏」も鵠沼の風景を描いたもので、彼が生前出版した自選画集の中に、会心作の一つとして収められている。劉生は13年頃から土の「生々しい不思議な生きた力」、道の「地軸から上へと押し上げている様な力」に感動し、「切り通しの写生」や「赤土と草」などの風景を描いているが、この作品もそれらに連なるものである。海に近い砂地の道の質感と澄明な初夏の陽光を浴びた新緑の松の生命感が、健康を取り戻した劉生の伸びやかな筆致で見事に表現されている。

